

日米同盟の強化に尽力 陸上自衛隊第1空挺団団長に勲功章を授与 JGSDF 1st AbnB commander receives Legion of Merit for outstanding service

March 20, 2025

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

3月18日、横田基地において、陸上自衛隊第1空挺団団長の若松純也陸将補にアメリカ軍の勲功章が授与された。受勲式では、第374空輸航空団司令官リチャード・マックエルハニー大佐が執行官を務め、若松陸将補による日米同盟強化への尽力に対し、謝意が表された。

受勲式には、第374運用群および第36空輸中隊の幹部も出席した。これらの部隊は、若松陸将補率いる第1空挺団と密接に連携し、日米部隊間の相互運用性を高めるための共同演習を数多く実施してきた。

この名誉ある勲章は、2022年3月から2025年3月までの3年間にわたり、第1空挺団長としての卓越した功績を挙げた若松陸将補を称えて授与された。在任中、若松陸将補は、米空軍と陸上自衛隊との相互尊重を深め、防衛協力の推進に大きく寄与した。そして、日米安全保障同盟における相互運用性をさらに向上させ、地域における多様な脅威や有事への即応態勢の強化に多大な貢献を果たした。

第374空輸航空団司令官マックエルハニー大佐は、「若松陸将補の献身とリーダーシップは、日米共同の運用能力および防衛力の向上に大きく寄与されました。この勲章は、我々の友情、そして両国間の揺るぎないパートナーシップの証です」と述べた。

若松陸将補の功績の一つとして、2023年の多国間訓練「降下訓練始め」を成功に導いた指揮が挙げられる。同訓練には、陸上自衛隊、米陸軍、オーストラリア陸軍、イギリス陸軍から計412名以上の空挺隊員が参加し、本訓練では初の多国間空挺作戦が実現した。この訓練は、日本政府高官および日本国民に対し、地域の安全保障に対する揺るぎない戦略的決意を明示するものとなった。

若松陸将補は、「この3年間、指揮を執る中で、第374空輸航空団とはほぼ毎月、共に空挺作戦を実施してきました。もともと密接な関係でしたが、今では友人を超え、まるで兄弟のような絆を感じています」と述べた。

勲功章は、アメリカ軍が卓越した業績や顕著な功績を挙げた人物に授与する、名誉ある軍事勲章である。若松陸将補の貢献は、日米両国の協力精神と共通の使命を体現するものであり、両国が自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて緊密に連携している姿勢を示すものである。

